



# 新刊案内



『図書館危機』 有川 浩/著	アスキーメディアワークス	T/アヒ
『一〇五度』 佐藤 まどか/著	あすなろ書房	T/サマ
『その景色をさがして』 中山 聖子/著	PHP研究所	T/ナセ
『アラルエン戦記』【11】 ジョン ワラガン/作	岩崎書店	TF/フシ
『友だち幻想』 菅野 仁/著	筑摩書房	T361/カヒ
『大学図鑑!』【2019】 オバタ カズユキ/監修	ダイヤモンド社	T376/タイ
『どんな人でも頭が良くなる世界に一つだけの勉強』 坪田 信貴/著	PHP研究所	T379/ツ/
『千年の田んぼ』 石井 里津子/著	旬報社	T616/イリ
『TWICE愛されガールズの笑顔と素顔』 ダイヤプレス		T767/トウ
『15才までに語彙をあと1500増やす本』 福田 尚弘/作	アーバン	T814/フナ
『いのちは贈りもの』 ワラシマ カズヲ/著	岩崎書店	T956/クフ
『魔法科高校の劣等生』【25】 佐島 勤/著	KADOKAWA	TB/サツ

ティーンズのココロ通信 山口市立中央図書館 174号

平成30年 6月 1日 発行 〒753-0075 山口市中国町7-7

TEL: 083-901-1040 FAX: 083-901-1144

Eメール: info@lib-yama.jp

## 働くということ・仕事



6月に入り、雨のたくさん降る季節がやってきました。ゆっくりと読書に親しむチャンスです!!  
みなさんは働くということにどんなイメージを持っていますか?  
今月のテーマは【働くということ・仕事】です。色々な職業、働くことの意味、仕事の価値などなど、さまざまな視点から本を集めてみました。もしかしたら、みなさんの仕事に対するイメージが変わるかもしれません☆!



## ●『働くってどんなこと？人はなぜ仕事をするの？』

ギョーム ル ブラン／著 岩崎書店 T100／シュ

大人になったらどうして働かなくてはいけないの？お金を稼ぐため？一度はそんな疑問をもったことがあるかもしれません。この本は、仕事とお金、仕事の価値や、働く理由についてみんなの疑問にわかりやすく答えています。また、哲学者たちの働くとは何なのかについての言葉もあり、心に響きます。仕事はもちろん大変なこともあるし、自由を制限されるけれど、達成する喜びを感じ、自分自身を成長させてくれます。働くことやお金の話など、まだ実感が沸かないかもしれないけれど、これから将来について考えていくときにきっと役に立つ一冊です。(Y. I)

## ●『はたらきたい。ほぼ日の就職論』

糸井 重里／監修 東京糸井重里事務所 366／ハタ

コピーライター糸井重里さんが主宰、運営しているウェブサイト「ほぼ日刊イトイ新聞」内での特集企画から生まれた本です。大企業のトップから自由業の役者さんまで様々な人たちが、ためになるような、余計に迷ってしまうような話も織り交ぜつつ対談形式で「仕事について」の事実を語っています。ページの隅に、テレビや雑誌などでも名前を目にするような著名人によるコメントが小さく記載してあり、グッとくる言葉がたくさん散りばめられています。キーワードは「大切にしているものは、何ですか?」。(M. S)

## ●『舟を編む』

三浦 しをん／著 光文社 ミシ

——辞書は言葉の海を渡る舟、編集者はその海を渡る舟を編んでいく——主人公馬締（まじめ）は、個性的な仲間たちと共に長い長い年月をかけて新しい辞書「大渡海」の作成に没頭していきます。

最初は興味がなくても、自分の得意分野でそのことに貢献する楽しさや、一生を捧げてよいと思えるくらい、誇りと情熱を持って仕事をする大切さがよくわかります。また、仕事は一人ではできないもの、チームで乗りこえていくものだということを教えてください。(S. M)

## ●『湘南の風に吹かれて豚を売る』

宮治 勇輔／著 かんき出版 T645／ミュ

一次産業を「かっこよくて、感動があって、稼げる3K産業にする」という理想を掲げ、バーベキューで起業した宮治さん。それは今や日本の農業の活性化と継承のための大きな存在となっています。

最初は漠然とした理想でも、焦らず等身大でいいんです。今自分にできることを一つずつやればいいんです。働くことは生きることにつながっています。それなら、自分らしく生きたいですよね？将来の夢や目標に悩んでいる人、働くことの意味や価値を見つけない人にぜひ読んでほしい一冊です。(S. M)

## ●『ひかり生まれるところ』

まはら 三桃／著 小学館 T／マミ

赤ちゃんの頃、そして中学時代と、ことあるごとに神社の存在に助けられてきた希美は大人になり、夢を叶えて神社で働き始めた。小さい頃から生真面目でしっかりものの希美は一見悩みなどなさそうだが、中学時代のある出来事が傷となりずっと癒えずにいた。希美はまじめな性格だけにその苦しみや痛みがとても伝わってきます。大人になり、神職として一生懸命働きながら、過去を乗り越えていく彼女の心の葛藤と成長が描かれています。普段知ることのできない神社の仕事や日常を覗いてみませんか。(Y. I)

## ●『ちいさな労働者 写真家ルイス・ハインの目がとらえた子どもたち』

ラッセル フリトマン／著 千葉 茂樹／訳 あすなろ書房 T366／フラ

題名の通り、ちいさな子どもたちが労働者として働く姿をとらえた一冊です。人によって働く意味や目的、理由は様々ですが、なんとなく働いて毎日をやり過ごしている現代の人々を思い浮かべると、教育の場を与えられず、選択の余地もなく日々の生活のため、お金を得るためだけに「労働者として働かされている」子どもたちの写真は、過酷な労働の中でつらいはずなのに、どこか誇らしく美しいまなざしで、見ているはっとさせられます。(M. S)